

## 令和5年度第1回静岡県立中央図書館協議会議事録（要旨）

1 日 時 令和5年6月1日（木）午後1時30分から4時まで

2 会 場 静岡県立中央図書館 3階会議室

静岡県駿河区谷田53番1号 電話番号054-262-1242

3 出席者

（委員）		（図書館）	
委員	轟木 堅一郎	館長	柴 雅房
委員	奥村 篤	副館長兼総務課長	山内 小百合
委員	庄田 達哉	総務班長	遠藤 一穂
委員	鈴木 千明	主査	真野 聡
委員	服部 祐三子	企画振興課長	田辺 章
委員	平松 栞	企画班長	青木 修
委員	山崎 克巳（Web）	資料課長	木村 知美
委員	吉見 光太郎	調査課長	鈴木 由美
		教育主幹	望月 克洋
		新図書館整備課長	金嶋 克年

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 館長挨拶
- (3) 会長挨拶
- (4) 副会長選出
- (5) 議事

ア 県立中央図書館の状況及び令和5年度主要施策について

イ 令和5年度各班等重点取組について

### 【質疑応答・意見交換】

（委員） 企画振興課振興班の重点取組について、昨年度の図書館大会のアンケートに関して、Webでの回答のみとして回収率が低かった要因は。

（図書館） アンケートは、その場で書いて出すので回答率が高くなるが、Webの場合は帰ってしまうとなかなか入力しないのではないかと。今年度は紙との併用、終了時にアンケート回答の時間を設けることなども考えている。

（委員） アンケートの項目数、内容についてはいかがか。時間を要す内容か。

(図書館) どの分科会か、内容についてはどうかという内容であるため時間は要しない内容である。

(委員) イベントによっては、アンケートのかわりにシールを貼る方法を採用しているものもある。参加者の年代の確認はしているか。

(図書館) 年代は確認していないが、図書館職員、学校関係者が主で、申込も電子申請で行っているため、Webアンケートに抵抗はないのではと考える。R4はコロナ禍のため定員に制限を設けたが、R5はフルで考えている。

(委員) 図書館の広報について、YouTubeがあまり活用されていないように思われた。電子図書館の登録方法のYouTubeショートがわかりやすかったため薦めたい。活用してはいかがか。

(委員) 出版したいと持ち込まれたが、出版にまでは至らなかった資料の中には保存した方が良いと思う価値のあるものもある。近代史についての原稿等、地域資料として、図書館で受け入れは可能か。

(図書館) 原稿という形態だと難しい。同人誌等本の形をとっていると受け入れやすい。

(委員) 大学教授の論文や講演資料等価値のあるものはPDF化、電子資料として受け入れられるか。

(図書館) 電子資料というと当館も電子書籍の提供はしている。札幌市内の図書館にはそのような事例がある。

(委員) 写真も文章もアーカイブとして、県立図書館として収集保管も課題として検討していただきたい。PDFだけでなく、EPUBについても検討願いたい。

(図書館) PDFの行政資料については収集している。検討したい。

(委員) 行政の資料だけでなく、民間の資料も同様に取り扱いしてほしい。

(委員) 館長の話に、これからの図書館のあり方として、集客力のある施設について触れていたが、人生100年時代、学びなおしが叫ばれている中の図書館について述べたい。少子化の中、孤立感を抱いている母親が情報共有したり、居場所となるようなスペースであってほしい。また、小中学校図書室においては、司書の力も含めて格差があり、ビブリオバトル参加率にも差異があるため、学校との接続をお願いしたい。

チャットGPTについても、大学生の論文、児童生徒の読書感想文等にチャットGPTを使用される可能性がある中、教員がそれをコンクールで選出したりすることのないよう、チャットGPTに対応した読解力、判断力の育成に図書館として研修を提供してほしい。

読書の仕方も多様化しているため、寝転んで読書する等、新館にはフ

リースペース、サロンスペースがあったら良いのではと思う。知識や情報の伝播はもとより人や知見の交流の場としての図書館があってほしい。

所蔵する資料の保存・活用・周知の課題も解決して欲しい。

(図書館) 「広がり」のイメージがポイントと考える。

読解力や、いわゆるリテラシーの育成も図書館が担うべき事項と考える。どこまで関わるか、米国では移民の最初の言葉の教育、言語取得サービスに図書館が携わっている。公民館のような役割も視野にしている。読んだものの発信も図書館が手助けする、そのような発想が求められている。

居場所としての個性も考えていく必要があると考える。

(委員) 読書は小さい時が大切である。少子化の中、小中高で朝読書をしたりもしているが、幼少時からタブレットを見せる親もいる。幼児時代の読み聞かせは忘れられない良い記憶となる。児童書はロングセラーが多い。親子が来館しやすく、どんぐり広場のような、良い雰囲気皆が本を読んでいるような環境を。読書する空間を増やすには、子どもの読書習慣の育成が大切である。

(図書館) 子ども時代の読書が大人の読書につながる。都城図書館は子育てセンターが隣接している。大人になるまで、読書から離れさせないのが大切である。

(委員) 先日、2歳くらいの幼児を連れ、借りたい本リストの紙を手持っていた親子に、カウンター職員が自ら出てリストの本を手渡していた。微笑ましい光景であった。どんぐり広場の本も老朽化が見られたため、新調してはと。同じ本でも、新しい本の方が、学校でも児童生徒が手に取りやすい。

(図書館) 買換えを予定している。

(委員) 収集方針について、多文化サービス、点字についてはどのように対応されていくか。

(図書館) 多文化サービス委員会を立ち上げて検討中である。点字も検討していきたい。

(委員) ビジブルデータ入力 of 遅延については、職員の負担のないように。

(図書館) 外部委託も検討している。